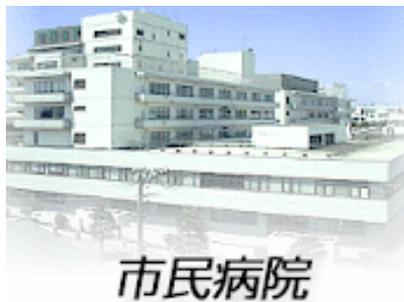


# 平成20年度 病院事業会計 予算概要



横浜市 病院経営局

# 病院事業会計 予算概要

## 目 次

1	平成 20 年度予算(案)の基本的な考え方	.....	1
2	病院事業全体の取組	.....	3
3	各病院の取組	.....	5
	(1) 市民病院		
	(2) 脳血管医療センター		
	(3) みなと赤十字病院		
4	一般会計繰入金	.....	17
	(1) 市民病院		
	(2) 脳血管医療センター		
	(3) みなと赤十字病院		
	【参考】用語解説	.....	22

# 1 平成 20 年度予算（案）の基本的な考え方

---

平成 20 年度は「横浜市立病院経営改革計画（17 年度～20 年度）」の最終年度となり、計画で掲げた目標の達成に向け、改革の取組も総仕上げの段階になります。

これまで、市民病院ではがん診療機能や救急医療の強化に、また、脳血管医療センターではリハビリテーションの充実に取り組むとともに、みなと赤十字病院（指定管理者）では政策的医療等の確実な実施を進めるなど、市立病院は安心・安全で満足・納得が得られる良質な医療サービスの効率的な提供に努めてきました。

20 年度は診療報酬の改定が行われるなど、病院事業を取り巻く環境が一層変化すると見込まれますが、市立病院としての役割を適切に果たしていく必要があります。そのためには、このような環境の変化に的確に対応することで、計画に基づき推進してきた各市立病院の医療機能をより高めるとともに、適正な収入の確保と徹底した経費削減により、安定した経営基盤を確立する必要があります。

また、公立病院改革に関する国のガイドラインも示されたところであり、今後の病院経営に関する中長期的な検討も行う必要があります。

以上のような観点から、「地域医療全体の質の向上」と「徹底した経営改善」の両面で引き続き改革を推進し、計画目標の確実な達成を図ることを念頭に、併せて、これまでの経営改革の取組を踏まえた新たな計画の検討も含めて、予算案を編成しました。

## ■「横浜市立病院経営改革計画」基本方針

- (1) すべての市民が、質・量ともに充実した医療を安心して受けられるよう、市立病院は、地域に必要とされる政策的医療等の中心的な担い手としての役割に加え、地域医療全体の質向上に資するための先導的な役割を果たしていきます。
- (2) 病院経営に関する権限と責任の明確化を図り、徹底した経営改善に取り組むとともに、一般会計負担の縮減を図ります。

## 平成20年度 病院事業会計 予算(案)総括表

### 【収益的収支】

(単位：千円)

	平成20年度	平成19年度	差引増減
<b>収益的収入</b>	<b>38,349,841</b>	<b>37,593,986</b>	<b>755,855</b>
市民病院	15,758,426	15,573,111	185,315
脳血管医療センター	6,870,201	6,452,695	417,506
みなと赤十字病院	15,721,214	15,568,180	153,034
旧港湾病院	-	-	-
<b>収益的支出</b>	<b>41,499,783</b>	<b>41,075,857</b>	<b>423,926</b>
市民病院	16,259,086	16,490,511	△ 231,425
脳血管医療センター	8,052,150	7,686,310	365,840
みなと赤十字病院	17,187,317	16,893,577	293,740
旧港湾病院	1,230	5,459	△ 4,229
<b>純 損 益</b>	<b>△ 3,149,942</b>	<b>△ 3,481,871</b>	<b>331,929</b>
<b>経常損益</b>	<b>△ 3,013,328</b>	<b>△ 3,127,814</b>	<b>114,486</b>
特別損益	△ 136,614	△ 354,057	217,443

### 【資本的収支】

	平成20年度	平成19年度	差引増減
<b>資本的収入</b>	<b>4,484,453</b>	<b>2,797,643</b>	<b>1,686,810</b>
市民病院	2,978,941	1,156,580	1,822,361
脳血管医療センター	962,866	1,291,326	△ 328,460
みなと赤十字病院	542,646	349,737	192,909
<b>資本的支出</b>	<b>5,813,633</b>	<b>4,469,450</b>	<b>1,344,183</b>
市民病院	3,695,315	2,272,582	1,422,733
脳血管医療センター	1,299,760	1,672,261	△ 372,501
みなと赤十字病院	818,558	524,607	293,951
<b>資本的収支</b>	<b>△ 1,329,180</b>	<b>△ 1,671,807</b>	<b>342,627</b>

<b>一般会計繰入金</b>	<b>6,220,729</b>	<b>5,893,426</b>	<b>327,303</b>
----------------	------------------	------------------	----------------

## 2 病院事業全体の取組

---

### ○ 電子カルテシステムの全面稼働【市民病院・脳血管医療センター】

情報化の推進により、医療における安全管理など、医療の質と患者サービスの向上を図るとともに、効率的な病院経営を実現します。

既に、平成20年1月から入院カルテの運用を開始しておりますが、5月に外来カルテの運用を開始し全面稼働します。

### ○ 管理部門の効率化

「横浜市立病院経営改革計画」に基づいて、関内にある局本部（経営改革部）を市民病院に移転し、市民病院の管理部門（管理部）と一体化することにより、迅速な意思決定、意思疎通の円滑化、局としての一体感の醸成、組織のスリム化や経費の節減など、効果的・効率的な運営を行います。

### ○ 自主料金の見直し

地域中核病院との均衡等を踏まえながら、市民から理解される適正な料金を設定します。

#### ➤ 分べん介助料【市民病院・みなと赤十字病院】

100,000円 → 120,000円

#### ➤ 非紹介患者初診料加算額【市民病院・脳血管医療センター・みなと赤十字病院】

1,630円 → 3,150円

### ○ 産婦人科医師への分べん手当の創設【市民病院】

分べん手当を創設することで、産婦人科医師の離職防止及び雇用確保を図り、市民病院における産科医療を、今後も安定的に提供します。

〈分べん1件：10,000円〉



## ○ 患者満足度の向上

引き続き、「患者満足度調査」を実施し、患者サービスの向上に努めます。

### <これまでに患者さんの要望により改善した取組例>

- ・ コンビニエンスストアの設置 <市民病院>
- ・ コーヒーショップの設置 <みなと赤十字病院>
- ・ 多目的トイレ（オストメイト対応、ベビーベッド設置等）の設置 <脳血管医療C>
- ・ 温水洗浄便座付のトイレ及びトイレ内ベビーキーパーの設置 <市民病院>
- ・ 院内における携帯電話使用可能区域の設置 <市民病院・脳血管医療C>
- ・ 患者さんの案内・介助などをするボランティアの拡充 <脳血管医療C>
- ・ 聴覚障害者用筆談器の設置 <みなと赤十字病院>

## ○ 看護師確保の強化

全国的な看護師不足の中で採用活動を強化するため、引き続き、看護師確保業務を担当する係長職（看護職）を中心に、病院見学会の開催、看護学校訪問、地方採用試験の開催等を積極的に行うとともに、広報・PR活動を拡充します。

## ○ 公的資金補償金免除繰上償還の実施

過去の高金利（5%以上）の公的な借入資金について、19年度から21年度の3年間で低金利借換することにより、支払利息を低減させます。

<借換対象額> 2,900百万円（19年度～21年度までの合計額）

<効果見込額> 600百万円（20年度～33年度までの合計額）

## ○ 公立病院改革プランの検討

総務省の「公立病院改革ガイドライン（19年12月24日総務省通知）」のなかで策定を求められている、「公立病院改革プラン」について検討します。

なお、今後策定する本市の病院事業に関する次期計画についても、公立病院改革プランと整合させながら検討していきます。

### ≡≡総務省が提示している公立病院改革プランの内容≡≡

- ◇ 策定期間：20年度内
- ◇ 計画期間：経営効率化……………3年程度  
経営形態見直し、再編・ネットワーク化……………5年程度
- ◇ 標準的な記載内容
  - ① 経営の効率化  
一般会計からの所定の繰出後、「経常黒字」が達成される水準を目途
  - ② 経営形態の見直し  
地方公営企業法全部適用、地方独立行政法人、指定管理者制度、民間譲渡を検討
  - ③ 再編・ネットワーク化

### 3 各病院の取組

#### (1) 市民病院

##### ○ がん診療機能の強化

###### ➢ 緩和ケア病棟の整備

がん患者さんなどの療養環境の向上を図るため、緩和ケア病棟の整備工事に着手し、21年3月に開床します。

###### 【整備概要】

病床数：20床（病棟面積 792.6㎡）

設備等：全室個室(17㎡)、患者家族の控室、台所、談話室等

###### ➢ PET-CTの本格稼働

20年3月に導入するPET-CTの本格稼働により、より正確な診断が可能となります。がん検診での活用も検討していきます。

###### ➢ 患者さんにわかりやすい診療科の標榜

がんの部位、症状や治療方法等に対応した診療科の標榜を行い、患者サービスの向上を図ります。

##### ○ 救急医療の充実

現在6床あるICUを段階的に増床し、10床にすることにより、より多くの重症患者さんや救急患者さんを受け入れていきます。

##### ○ 地域医療連携の充実

地域医療支援病院として、高度医療機器の共同利用や、地域連携パスを策定するなど地域医療機関との連携をさらに強化していきます。

##### ○ 新型インフルエンザ対策

県内唯一の第一種感染症指定医療機関として、新型インフルエンザが発生した場合に中心的な役割を果たします。地域への研修や院内訓練の実施など、引き続き十分な準備を行います。

##### ○ DPC（入院診療費の包括算定）の準備・導入

DPCの導入により、患者さんにとってわかりやすい医療費体系となるほか、急性期病院としてさらなる入院日数の適正化を進め、収益向上にもつなげていきます。

##### ○ 必要な人材の育成・確保

➢ 産婦人科専門の臨床研修医の受入れを新規に行い、産婦人科医師の養成を図ります。

➢ 専門化する看護業務について、研修派遣を行うなど計画的に育成を図り、安全で質の高い看護を提供していきます。

##### (これまでのがん診療機能強化の取組)

H16.1 無菌治療室設置（2床）

H16.5 緩和ケアチーム編成

H17.11 がん検診センター土曜日検診開始

H18.1 さわやか相談室設置

H18.3 内視鏡センター開設

外来化学療法室開設

定位放射線装置導入

H18.8 地域がん診療連携拠点病院の指定

H19.1 無菌治療室増床（2→16床）

【市民病院の概要】（ <http://www.city.yokohama.jp/me/byouin/s-byouin/index.html> ）

市民病院は、公設公営の総合的な病院として、救急医療、感染症医療など、地域に必要とされる政策的医療に取り組むとともに、地域医療全体の質向上に資するための先導的な役割を果たしてまいります。

開	院	昭和 35 年 10 月 18 日
所	在	地 保土ヶ谷区岡沢町 5 6
敷	地	面 積 2 0,3 8 9 m <sup>2</sup>
建	物	延 床 面 積
	病 院	3 6,5 7 6 m <sup>2</sup>
	が ん 検 診 セ ン タ ー	3,6 6 6 m <sup>2</sup>
	付 属 施 設	2,2 9 1 m <sup>2</sup>
		〈緩和ケア病棟は未しゅん工のため含んでいません。〉
病	床	数 6 5 0 床（一般 6 2 4 床、感染症 2 6 床）
診	療	科 2 2 科
		内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、 循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、 脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、 泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、 リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科

【市民病院の特徴】

- 24 時間 365 日の救急医療
- 第一種感染症指定医療機関
- 輪番制救急医療
- 第二種感染症指定医療機関
- 小児救急医療
- エイズ診療拠点病院
- 母児二次救急医療
- 臨床研修指定病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 地域周産期母子医療センター
- 地域医療支援病院
- 神奈川県周産期救急医療システム中核病院
- 神奈川県災害医療拠点病院
- (財)日本医療機能評価機構認定病院



## 【市民病院の収益的収支】

(単位：千円)

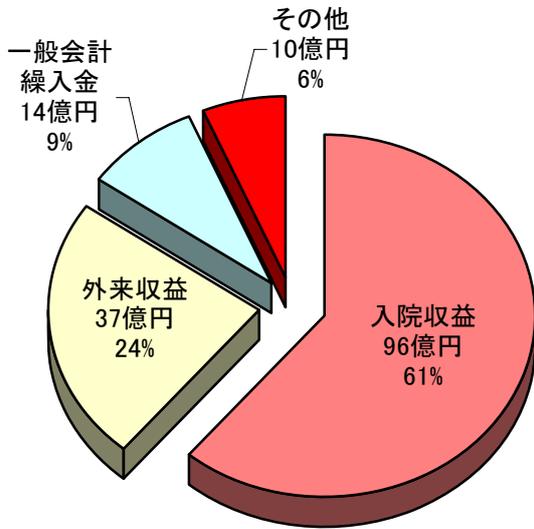
	平成20年度	平成19年度	差引増減	説明
<b>市民病院 収益的収入</b>	<b>15,758,426</b>	<b>15,573,111</b>	<b>185,315</b>	
入院収益	9,606,800	9,366,672	240,128	1日平均患者数560人
外来収益	3,742,200	3,773,000	△ 30,800	1日平均患者数1,400人
一般会計繰入金	1,401,083	1,435,910	△ 34,827	
その他	1,008,343	997,529	10,814	室料差額収益等
<b>市民病院 収益的支出</b>	<b>16,259,086</b>	<b>16,490,511</b>	<b>△ 231,425</b>	
給与費	8,454,730	8,233,141	221,589	職員給与費等
材料費	3,893,615	3,842,991	50,624	薬品費、診療材料費等
経費等	2,713,358	2,696,906	16,452	光熱水費、委託料等
減価償却費等	687,909	753,748	△ 65,839	
支払利息等	296,518	340,885	△ 44,367	
本部費	212,956	274,242	△ 61,286	
特別損失	-	348,598	△ 348,598	
<b>純損益</b>	<b>△ 500,660</b>	<b>△ 917,400</b>	<b>416,740</b>	
経常損益	△ 500,660	△ 568,802	68,142	
特別損益	-	△ 348,598	348,598	

## 【市民病院の資本的収支】

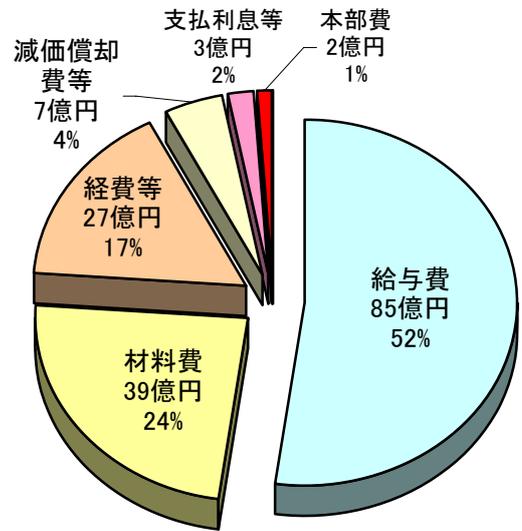
(単位：千円)

	平成20年度	平成19年度	差引増減	説明
<b>市民病院 資本的収入</b>	<b>2,978,941</b>	<b>1,156,580</b>	<b>1,822,361</b>	
企業債	2,645,000	930,000	1,715,000	新規発行債 818百万円 借換債 1,827百万円
一般会計繰入金	333,941	226,580	107,361	
<b>市民病院 資本的支出</b>	<b>3,695,315</b>	<b>2,272,582</b>	<b>1,422,733</b>	
建設改良費	1,367,403	1,819,420	△ 452,017	緩和ケア病棟整備等
企業債償還金	2,327,912	453,162	1,874,750	既定債償還 499百万円 繰上償還 1,829百万円
<b>資本的収支</b>	<b>△ 716,374</b>	<b>△ 1,116,002</b>	<b>399,628</b>	

**収益的収入 158億円**

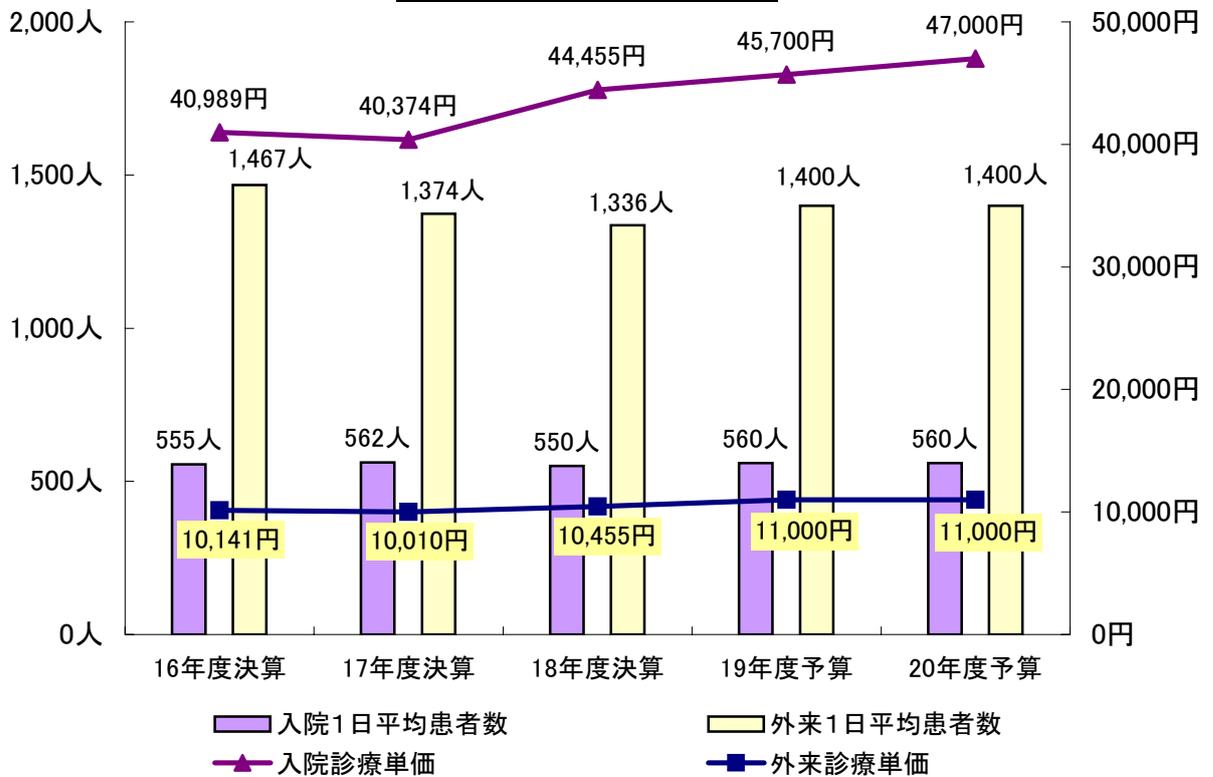


**収益的支出 163億円**



※表中の数値は億円未満は各項目で四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

**入院・外来収益指標の推移**



## (2) 脳血管医療センター

### ○ リハビリテーションの拡大（日曜日実施）

リハビリテーションの効果をより高めることにより、寝たきりの防止や早期社会復帰の一層の促進を図るため、平日のほか 19 年 7 月から開始した土曜日のリハビリテーションに加え、日曜日にも実施します。

### ○ 脳卒中先進医療の推進

脳卒中の救急医療の充実、特に発症 3 時間以内に使用すると脳梗塞に大きな効果がある薬剤、t-P A について、市内の病院や(社)日本脳卒中協会神奈川県支部と連携しながら普及を図り、早期診断、治療を推進します。

### ○ 脳卒中予防事業

#### ➢ 市民講演会・再発予防講座の拡充

区内ホール、区公会堂で毎年開催している市民講演会を年 2 回から 3 回に増やすとともに、脳卒中予防のための市民教育講座を拡充します。

#### ➢ 関係機関主催講演会への講師派遣

脳卒中の発症・再発の予防を広く市民に呼びかけるため、区役所、消防署、医師会、医療福祉関係団体等の主催する講演会、研修会等へ、当センタースタッフを講師として派遣します。

#### ➢ 脳ドックの拡大

週 3 日実施している脳ドックを拡大して、市民ニーズに対応していきます。

### ○ クレジットカード払いの導入

患者さんの利便性を図るため、20 年 4 月から診療費のクレジットカード払いを開始します。これにより、市立 3 病院でクレジットカード払いが可能となります。

### ○ 複数年度契約の実施

経費縮減や業務履行の安定化が期待できる、施設管理業務、清掃業務などの委託業務等について、複数年度契約を実施します。（債務負担設定）

#### 指定管理者独自の取組

### ○ 併設介護老人保健施設に運動機能向上プログラムを導入

指定管理者が運営している併設の介護老人保健施設において、パワーリハビリテーション機器、有酸素トレーニング機器を導入し、筋力トレーニング用品を拡充するなど、運動機能向上プログラムに取り組み、寝たきりを防止します。



【脳血管医療センターの概要】（ <http://www.city.yokohama.jp/me/byouin/nou/index.html> ）

脳血管医療センターは、脳卒中による後遺症の軽減と早期社会復帰の支援に取り組む脳血管疾患の専門病院として、救急患者を受け入れ、内科的・外科的治療を行うとともに、発症直後の早期から一貫したリハビリテーションを行います。

開	院	平成11年8月1日						
所	在	地	磯子区滝頭1丁目2番1号					
敷	地	面	積	18,503㎡				
建	物	延	床	面	積	病院	35,324㎡	(地下駐車場等を含む)
						介護老人保健施設	3,413㎡	
						職員宿舎	3,056㎡	
病	床	数	300床					
診	療	科	6科					
			内科、神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科					
介護老人保健施設	定員	入所	80人	通所	25人			

【脳血管医療センターの特徴】

- 急性期から回復期に至るまでの一貫した治療とリハビリテーションに取り組む脳血管疾患専門病院
- 24時間365日の救急医療
- 指定管理者（医療法人社団ジャパンメディカルアライアンス）による併設介護老人保健施設の運営



【脳血管医療センターの収益的収支】

(単位：千円)

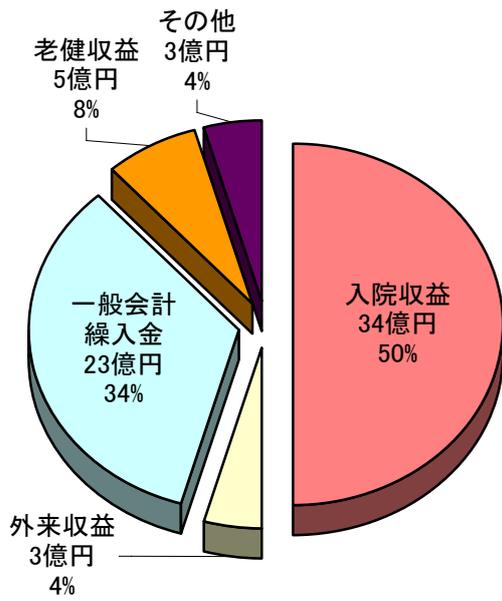
	平成20年度	平成19年度	差引増減	説明
脳血管医療センター 収益的収入	6,870,201	6,452,695	417,506	
入院収益	3,425,160	3,131,496	293,664	1日平均患者数276人
外来収益	287,712	297,920	△ 10,208	1日平均患者数160人
一般会計繰入金	2,336,026	2,347,575	△ 11,549	うち老健企業債利息分 26,124千円
介護老人保健施設収益	535,190	445,197	89,993	事業収益 指定管理者負担金
その他	286,113	230,507	55,606	室料差額収益等
脳血管医療センター 収益的支出	8,052,150	7,686,310	365,840	
給与費	3,755,990	3,488,930	267,060	職員給与費等
材料費	622,125	618,328	3,797	薬品費、診療材料費等
経費等	1,418,283	1,326,634	91,649	光熱水費、委託料等
減価償却費等	1,093,093	1,108,257	△ 15,164	
支払利息等	472,288	482,740	△ 10,452	
本部費	57,495	110,478	△ 52,983	
介護老人保健施設費用	632,876	550,943	81,933	指定管理者への交付金 支払利息、減価償却費等
純損益	△ 1,181,949	△ 1,233,615	51,666	
経常損益	△ 1,181,949	△ 1,233,615	51,666	
特別損益	-	-	-	

【脳血管医療センターの資本的収支】

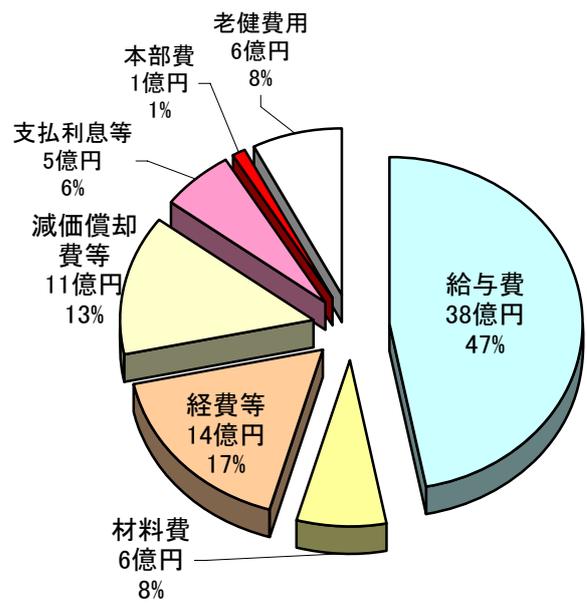
(単位：千円)

	平成20年度	平成19年度	差引増減	説明
脳血管医療センター 資本的収入	962,866	1,291,326	△ 328,460	
企業債	390,000	731,000	△ 341,000	
一般会計繰入金	572,866	560,326	12,540	
脳血管医療センター 資本的支出	1,299,760	1,672,261	△ 372,501	
建設改良費	440,459	831,771	△ 391,312	高度情報化等
企業債償還金	859,301	840,490	18,811	
資本的収支	△ 336,894	△ 380,935	44,041	

**収益的収入 69億円**

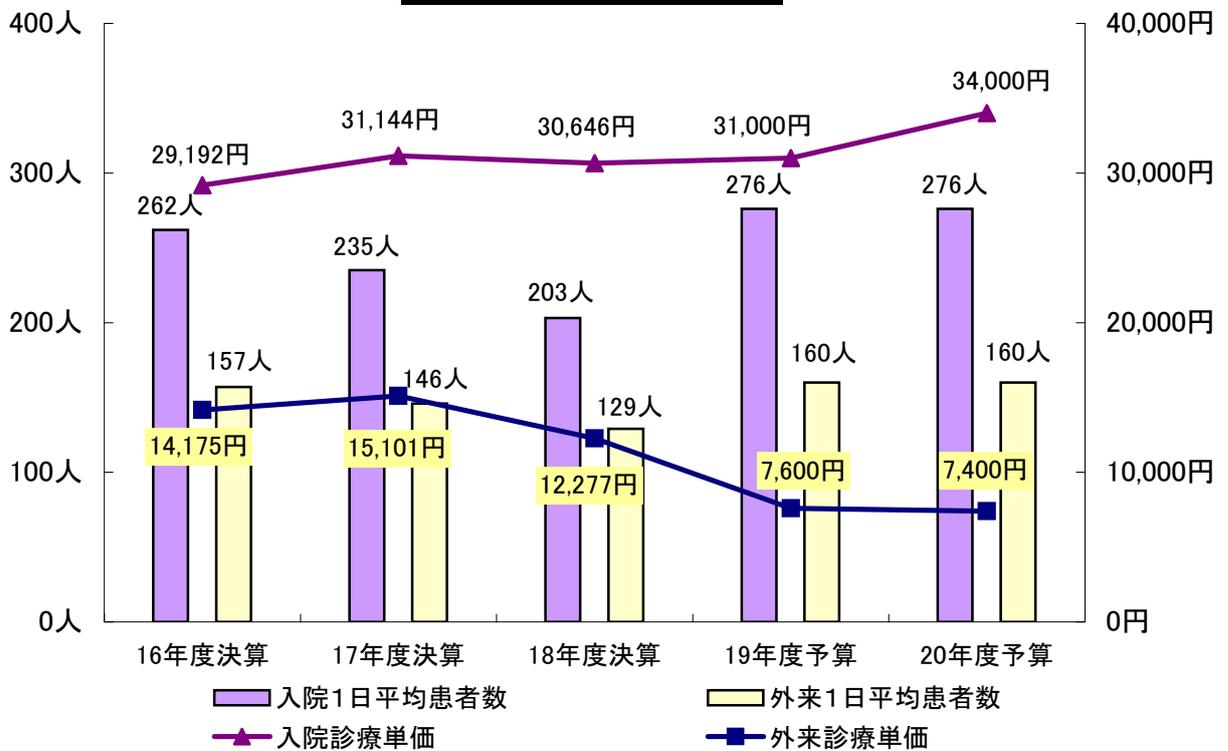


**収益的支出 81億円**



※表中の数値は億円未満は各項目で四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

**入院・外来収益指標の推移**



※19年度以降は院外処方の実施により、外来診療単価が減少する見込みです。





















